〔一〕　第四千二百十九號　〔木曜日〕　磐城新聞　昭和十年一月十日　〔大正五年十二月二十二日第三種郵便物認可〕

夕刊　一月九日發行
（日曜祭日翌日休刊）

噂について 上

向所無敵

人間は噂を好む動物である。——犬や、猿が
『あのブルチャンは、いやなシトよ』
などと噂するか、どうか——は知らぬが、もし、するものとしても人間程、それを好みはしないであらう
これを、學者をして定議づけしむれば
『人間三人ある所に必ず噂あり——』
『噂は、三人以上の——否二人以上の場合ですら——人間社會に於いて成立す』
などゝ——いふ事になるであらう——と思はれる程、事程さように人間と『噂』は男の女に於ける如く、檢察官の政治家に於ける如く、さては好色の文士に於ける如く切つても切れぬ關係にある
○
と、かう書き出すと、さとりの早い讀者は、私が最近噂に依つて惱まされた事實を愚痴らうとしてゐるのだなと、推察せられることであらう。まことに無心者の長々しい前説が、金のある人間をして思はず財布のふたを閉ぢしめる如く、雜文書きの鹿爪らしい切り出しは、讀者を警戒せしめるに充分なものである——
だが、早まつてはならない。私は、——この文章に於ける書き出しに關する限り、雜文書きではない。私は噂に惱まされた人間の愚痴に抗議するのである
○
さて、私は噂を奨勵する——いや、私を俟つまでもなく、文部省が大小雜多の教育家と共に——意識すると否とにかゝはず——すでに、それを奨勵してゐる
偉大なる敎育家である母が、幼兒の寢物語りにする『桃太郎鬼征伐』のお伽話は、氣はやさしくて力持ちである所の桃太郎君の噂であり、小學敎訓導が兒童に敎ゆる『大楠公の忠誠』はいふまでもなく、楠正成公の噂である。[illegible]に、社會の木鐸と唱へ輿論の指導者と稱せられる所の新聞紙は無刺戟な家庭に、生彩を添へるべく、到底貧弱な記憶力を以てしては記憶し切れぬ程の噂を、毎日々々運んでくれるではないか

故鄕の鳥 三

青木淳

そんなエピソードをのこして三人は、相變らず呑み乍ら好間にかへつて行つたが、おからすを叫んでくれたその隣りの主人公も、その住職さんも、すでに黄泉の客となつてしまつて、今更におからすのこゑが耳にのこつてゐる
今頃あの平窪方の社には私が少年時代に見た時のやうに、やはり、あかい夕陽を浴びて鳥の群が見られるのであらうか
鳥のたくさんゐたあの村里も、炭鑛が出來てから樹木の茂つてゐた山が、すつかり荒れ果て、無殘な地膚が灰白く食み出てゐるし、その昔、魚の住んでゐた川は眞赤に錆びて、菜の花の咲く頃から泳ぎに行つてゐた自分にとつて、思ひ出の種になつてゐたのが、もう見る形もなくなつてゐることが、私をこの上もなくセンチにさせる。中學時代、一所に勉強してゐた友人が遠くシンガポールに行つてしまひ、今頃どうしてゐるかもわからないし、そのころ炭鑛に小さな郵便局があつて、そこには美しい娘がゐた。家の蹉てつのため女學校も中途で退學し、泣き平・會津の方に去つて行つたが、今はどつかで幸福に暮してゐるだらう。村にはそういふ變遷がつゞけられてゐるであらう。何をいつても故鄕に安穩に、生活出來る人は幸福であると思ふ
あゝ、あの、夕やけのなかに、いまだに鳥が群れたつてゐるであらう。そんな事がかいてゐる自分も旅鳥。忽ち老ひくちてしまふ事を焉ぞ知らんやではある
（一月三日記）

磐城歌壇

新妻久滿夫選

推薦『病みて』（十三首）　荻原たけ

◎薬湯のぬくもりしろく臥りゐて、木枯の音を窓に開き居り
◎一筋もまたなく惜しむおみなわれに、秋ふかみ來て今朝のおち髪
○葉は落ちてもぎのこされし熟れ柘榴、陽光（ひかげ）やうやく秋闌けにけり
◎皺柑子並きつぶら實つゝましう、色增しにつゝみ冬づきたり
○いさゝかのさやりにわれを失へば、生きの力も覺束なけれ

潮聲硯靜抄帳

潮來にて

舟に居て山茶花折りぬ十二橋　二葉
稻舟をあやつり來しは女なり
蕣塚のほつ／＼出來て利根堤
秋晴るゝバルーンデッセは屋根に垂れ
菊の鉢庭石に置き棧に溜き

その日

○
寒日和もあたゝかく、日向にゐると眠くなる
庭の紅梅もちらほら咲きそめた

1月10日
△徳川吉宗薨ず（寛永六）△大隈侯薨ず（大正一一）△支那中央軍廈門を接收す△内務省首腦部會議で選擧公營原案可決（昭和九）

講談

戸隠奇譚 山の怪秘 (79)

丸山寛雄作　眞木浪畫

川中島（三）

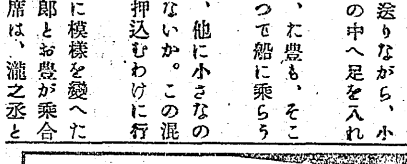
平七郎は、戸隠山顯光寺本尊秘佛を盗みとつたのは、てつきりこの侍姿の旅人に相違ないと見當をつけた。見れば一人の女を伴つてゐるし、また佛像の這入つた風呂敷を受取つた瞬間の、その狼狽に燃ねた眼の配りの激しさ、平七郎は此擧動を見逃さなかつた
『うむ、さうだ、この場で！』
平七郎は、權幕恐ろしくお豐の休んでゐる茶屋へ戻つて、荒々しく大小を腰に差した
『まあ、あなた、何をなさいますの』
お豐は時ならぬ平七郎の慌て込みに驚いた
『お豐、目指す顯光寺々寶の盗人は見つかつた。あれにゐる男女二人の者、あれに[illegible]ない』
『まあ、あなた、もし間違つたときには大變なことになります。それに違ひない證據でもございますか』
『あの人足どもの言葉が何よりの證據、これから行つて取戻してくれる』
平七郎はお豐の必死にとゞめるのを振切らうとした
『あなた待つて下さいましこんなところで血を流せば相手が傷ついたにせよ。場所が場所ゆゑ、道中役人も駆けつけ、大きな表沙汰になります。それよりあの人達の跡をつけ、宿を同じくしてから奪つた方が、宜しいかと存じます』
『さうか』
平七郎は放心したやうに床几へ腰を下した
瀧之丞と平七郎、それは立合はせて見なければ、實際のことは云へぬが、現在の平七郎は少とも六分の勝ち目はあるやうにも見れたが、この街道の盛り場とも云ふべき渡船場を騒がすことは面白くない。まして川越人足等が瀧之丞から多分の鳥目を貰つたところだ、下手に劍戟沙汰に及んだ揚げ句、大勢の人足達が相手に加擔したらば目的は遂げられない。その上道中殺人も、かうした盛り場へは激しく往來してゐる。平七郎はとつさに考へ直して。ひと先づ瀧之丞を見逃すことにした。そして、この次の宿場あたりで同宿した上、夜陰に及んで盗み出すのが一番、策の得たものだと[illegible]つた
そのうちに渡し船の出る合圖があつた
どの茶屋に休んでゐた旅人も、靜かに疲れの休まつた腰をあげてどや／＼と水際へ下りて行く
その氣配に驚いてか、みぎはのよしのほとりに片足をあげてゐた白鷺が、バッと中空へ飛立つた
旅人は物珍しさうに白鷺の行衛を見送りながら、小さな渡し船の中へ足を入れる
平七郎も、お豐も、そこへ下りて行つて船に乘らうと思つたが
『おい船頭、他に小さなのがもう一艘ないか。この混雜では二人押込むわけに行かない』
と、俄かに模様を變へた
いま平七郎とお豐が乘合はうとする席は、瀧之丞と[illegible]菜に間近く向ひ合ふ位置にあつたからである。これは不可ない——瀧之丞も警戒の眼を乘船の誰彼に配るのが判つてゐれば、自分も亦瀧之丞の擧動に對して無關心でゐるわけに行かない。自然二人の間に眼の探り合が出來て不味いと思つたからであつた

明けまして御目出度ふ
年明けると共にニユーさ現はれました。花の平は新田町に素人料理、おでんかん酒、榮ちやんの暖簾マヅイ事天下一品、一度は御立寄り御試食御批判を願ひます
平町新田町　おでん　榮ちやん
小娘さん至急入用（十三—十五迄）

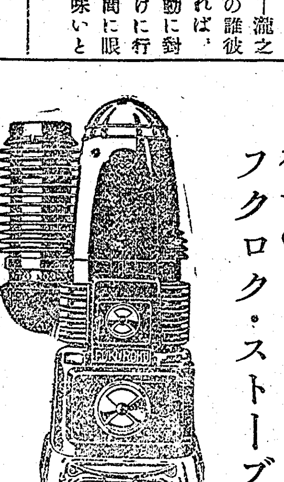
移轉
謹而賀新年
私儀今般都合に依り同町三十番に轉居從來通り營業仕り候間倍舊の御愛顧を賜り度新年の御挨拶を兼ね御願申上候　敬白
三丁目北裏通り三〇　小鍛冶永助　電話三三番
小店員入用　十二三ヨリ十六迄

精神病科　腦脊髓病科　神經病科
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院　電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

廣告



完全燃燒の●煙筒掃除の要なき
日本一の……
フクロク・ストーブ



御申込次第カタログ持参御伺ひ致します。
發賣元
（久）釜屋商店　平町五丁目　電話九番
（ツ）阿部石炭商店　平驛前　電話三七番

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……
直に家政婦を派出します。
親切叮嚀　…料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
平町紺屋町二（電話二二）
上原家政婦會
會主　產婆　上原通子

斯界の權威
クロードネオン
ネオンサインの御撰擇は何より先づ品質の秀麗耐久力、豐富、就中設備の完備が最要件であります、クロードネオンはネオンサインの發明者佛人ジョルジユ、クロード博士の特許に依つて製作されたものでありますから之等一切の條件を完備したもので不完全な特許侵害品や摸造品とは自ら其性質を異にして斷然他製品の追從を許さないものであります
御申込次第型錄進呈御相談に應じます
クロードネオン代理店
日東商會　電話四二八

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
（久）釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門　X光線科
平南町
上田醫院（電話一二九）
病室完備

銘木ト建築木材ノ御用命ハ今一番勉强スル當店へ
内外銘木　建築材一式　便利瓦
平町紺屋町
（金）織田材木商店　電話四六〇番
榧優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。

自轉車乘用家の惱みは解消
雨降らば降れ！雪何のその!!!
いとも朗か！平氣で行進!!!
特許『流線型自轉車こうもり』の御使用をお奬め致します。
從來の苦惱…下体の濡汚は…爪先迄完全防止。强力防水布及鋼鐵の特製なれば耐久力强大　折り疊めば極めて小さく携帶至便
御通勤に、御通學に、御商用に、其の他一般輪乘家は衛生保健の爲め……是非一本を！
特賣期間中　一本　六十五錢
一月二十五日迄（但し遠隔地は送料要十錢）
福島縣總代理店　石城郡四倉驛前　白川東光舍
平町販賣店　國村自轉車店
平町北目　才槌小路　電話五三八番　矢野自轉車店
大野村　鈴木自轉車店
縣內各地特約店急募（一驛一店制）
（返信料添附御照會を乞ふ）
必備せよ……一車に一本

貸切の御用命は
「尼子タクシー」へ
六四〇番
長距離は御相談に應じます
御願致します

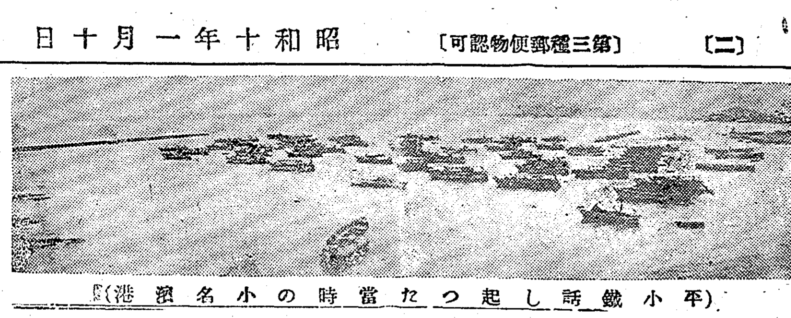
産婦人科　外科　藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　立番彌一
入院隨意　病室完備
平町新川町十九番地
木村病院　電話一六四番

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

高久病院（電話五三二番）
平町田町
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

海の商港と呼應して 陸を這ふ交通文化の觸手

前後十年の苦心完全に酬ひられ 平小鐵建設愈々正式決定



(平小鐵話し起つた當時の小名濱港)

渦般來頓に愈々實現の機近きに迫つた事を想はしめて居た平小鐵道建設豫算

十年度より十三年度迄四ヶ年工費百十四萬三千圓、內十年度は測量費三萬圓

は昨八日の閣議に於て建設計劃は一切既定計劃を踏襲すると云ふ事で正式に決定し、玆に前後十年來の大問題は解決し今後はたゞ十年度早々行はる測量の開始を皮切りに十三年度の完成を待つのみとなつた

防國—産業の見地より 心から祝福

鈴木代議士談

交通上四通八達の要衝に在る平町と、商港小名濱間の距離を短縮せしめんとする平小鐵道の實現は我國の國防産業上正に焦眉の急問題で、既に商港工事が行はれ着々順調に進捗しつゝある今日、之れと呼應すべき平小鐵の起工が遲延するが如き跛行的の行はるべきで無く今回の決定は既定の事實として見て了へば其迄であるが豫算縮減の大斧鉞によつて既定事業中繰り延べ縮小の運命に遇つた處が少からぬ折柄、今日の決定を見た事は寔に慶祝に禁ねぬ處である

最も効果的の利用策を考へよ

青沼町長の平小鐵觀

平町に於ける平小鐵道の促進運動は既に大正十五年來町會に委員若干名を置き小名濱町と共に絶えず運動を續け、最近では內田鐵相に對し昨秋九月十四日青沼、小野兩町長連署の陳情書を出し、更に同十一月最後的實地調査の爲本省東京鐵道建設事務所長長屋脩、同技師岩田實兩氏の來郡あるや前記兩町長は同二十日上京金成、鈴木貴衆兩議員と共に鐵相に親しく陳情する等終始一貫その實現に努力したもので擧町今回の快報を喜んでゐるが町議時代より運動に參劃し來つた青沼町長は語る

地方多年の要望たる平小鐵が愈々正式に決定し、近き將來に於て太平洋日本海の聯絡さるゝに至つた事は國家の爲小にしては地方民の爲欣びに堪へぬ處である、此上は地方産業經濟の發達を圖り、より有効適切なる該交通機關の利用策を講究し折角の施設を最大限度に効果的ならしめねばならぬと信ずる

持久玆に十星霜

顧みて感慨に堪へぬ、と 小野小名濱町長語る

當時後方聯絡關係上寧ろ小名濱商港實現の前提と見られた平小鐵道問題は去る大正十五年中に相當具体化し、その年の八月三十日には鐵道省建設局から佐藤高市技師外技手四名、建設工手五名が來平、住吉屋支店に滯在三十一日から十五日間に亘つて平、小名濱間を實測し、早くも其翌年度には恐らく豫算に計上され議決を待つて翌年度頃には工事に着手する位に想はれ、其後十二月閣議に於て或は左澤、荒砥間（山形縣）のそれに優先さるゝ場合があるではないかと傳へられ右議決の如何に至大の關係を有する本縣下は勿論一般その成りゆきを刮目してゐたが右は當時の情勢から觀て黨出身閣僚の力說もその功を奏せなかつたものか首尾よく平小名濱間が其頃の鐵道新線に計上され、玆に着手の懸案が實現の第一步に入つたので新線起點の地元たる小名濱町では十九日の舊十五日を期し同町小學校に於て擧町簡素なる祝賀會を計劃された程であつた。今日に漕ぎ着ける迄の吾々町民の苦辛を顧ると誠に感慨無量である

何處を通るか？

當時話題に上つた豫定線 十年後の後日譚

今から十年前。愈々平小鐵豫定線の測量が始まる直前大正十五年八月初旬頃、一部に行はれた同鐵道經由地の臆測話。果して如何なる程度に的中するか左に當時の本紙記事を抄記する。

—平小鐵道の敷設に關し地方産業の開發を主眼とせる片濱廻り卽ち

現在の平驛を基點とし鎌田遊廓西裏田圃を橫ぎり飯野村南白土を經て夏井村菅波の一部を貫通し飯野村上高久に出て東進して高久村に入り豐間、江名を經て小名濱に至る

ものと平町の水害豫防及工費輕減より割出されたる草野迂回卽ち

草野より夏井、高久を經て小名濱に至る

ものと其の豫定線に大体二樣の腹案を有するものゝ如くなる旨昨報の通りであるが、更に探聞する處によれば以上の外

平町より鹿島村及び玉川村大字岡小名の一部を經て小名濱に至る

鹿島村經由案と

湯本より大体現在磐城炭鑛の輕便鐵道に併行し小名濱に至る

湯本町經由案を併せて都合四樣の腹案を有し愼重に調査考量の上最も地方の實際狀況に適合し且工事の容易なる線路を選擇決定せんとするものの如く目下何れとも決定して居らぬ模樣であるから今後時日の經過と共に各關係町村に於て夫々何等かの運動を開始さるゝものと想像される。云々

福陽會書展 來五月平町で

福島出身者より結成され東京書壇に貢献してゐる福陽會では來る五月中旬頃約一週間に亘り濱通りに於ける第一回の繪書展覽會（場所は大体第三小學校講堂）を催すべく昨八日平町に於てこれが協議會を開いた結果左記八氏を發起人とし文部省囑託滯井健治氏を肝煎として開催する事に決定したと

勝田蕉琴、荻生天泉、太田秋民、石塚省三、坂内青嵐、角田磐谷、渡邊治年、三井三良

經濟活況を語る 市外通話料增加

平局の明るい數字

平局の市外電話利用者は最近漸增を示し回線增加、通話區域の擴張等伸展著しきものあるが、客臘中の通話料收入は三千二百一圓二十錢で前年の最高同月を突破すること五百七十圓四十六錢と云ふ同局開設以來の最高記錄を示したが右に就いて同局では

軍需インフレによる地方經濟界の立直りを示して居ると言へよう、この分で行けば前年度の二萬六千五百三十三圓五十三錢から一躍三萬圓を突破するであらう

と語つて居り、個人的に多い方では二百三十二圓五十錢、百四十九圓五十錢、百十九圓十五錢あたりである

鐘紡誘致運動續行

上京待機の平町代表 各方面から資料を蒐集

各方面から手の延びて居る鐘紡工場誘致に關し平町では一層の猛運動を起すべく昨八日午後一時から町會議事堂に於て委員會を開いた結果來る二十三、四日頃東京で開かれる同社の總會を機として上京極力陳情する事になり、それ迄所要電力石炭關係其他地形など調査し郡山市草野順平氏等の斡旋により愈々本調子に乘り出す事になつたと

鄕土の史的時事解說（二）

白水阿彌陀堂の第二回修理（十一）

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置三佛像國寶各指定に就て

勿來生

姑らく岩城系圖と岩城地方の俗誌を此に假信して云ふと、永暦元年二月二十五日、成衡が五十一歳で死したので德尼は亡夫の追善と五郡に分居する一門の統和を謀る爲に、宗廟を白水村に創定するに至つたと云ひ其の所以は、其の年三月十五日の夜半、平泉の金色堂內本尊阿彌陀如來の靈夢に因るとされ、遂に其の移作を發願したと云ふのである且つ之に己れの守佛なる行基の作（是れは後年の附會三箇參見）の阿彌陀、其の他數軀を安置したと云ふのであらう。從つて當時、平氏の全領は岩城郡の外四郡卽ち岩崎、楢葉、標葉、行方等であるが、後三年役後成衡又は其の子が父の功に因つて義家或は朝廷から賜つた際は、平安忠若しくは清原武衡の跡なる岩城郡の外に標葉、行方郡をも併收したのであらうか。岩城平氏の諸傳には成衡既に五郡を領し、其の子五人に一郡づゝを割與して全族協力して菊多剗外を扼制した如く記されるが、初代成衡の頃（寬治前後）には、岩崎、楢葉郡などは岩城郡より未分建されてゐなかつたらうどあるのを半ば信ずれば、標葉、行方は上代より繼綴せる古郡であり、岩城郡は後ち岩崎、楢葉二郡を南北に別けたから、其の勢力は大いに減少した。平德尼以來、其の子孫の居城も廢々更へられて、始めは高久次いで白土、好間村あたりで、彼の鎌倉實記に據ると養安元年十二月には德尼が達者で百餘歳とあり、又永萬元年九月、岩城三箱山の麓に白水寺（今の願成寺を云ふか、或は當時此く呼ぶ寺がありしか不詳）云々な其の頃は未だ岩城郡は分れてゐなかつたことにならう

尋いで德尼の長男か長等に五子が出來ると共に邏岩城の平氏が益々繁延し其の總領は既に居郡を姓とつて卽ち平を岩城と改め弟四人を分封するに當つて本郡の南北を割き、岩崎（後ち前とも）楢葉郡を立てゝ玆に從來の標葉、行方と合せて五郡となり、宗家は岩城に居つたのである

○……

○……

平第一 新級長

平第一校では今八日左記新級長の任命式を行つた

三年一組青沼康裕 豊口秀哉 二組佐竹五郎 鈴木一男 三組磯山一朗 上澤成男 四組鈴木仁 小林茂 四年一組中島恒 清水俊政 二組鈴木滿男 横山榮一 三組岡田孝平 闘原進 五年一組齊藤齊 飛田常重 二組渡邊弘道 鈴木重雄 三組飯島登司 諸橋英二 六年一組篠山達見 北林唯雄 二組水野武雄 坂本秀雄 三組筒井重衛門 小野勝三 四組小原健次郎 野川讓 高一一組柴澤松榮 篠山武 二組鶴沼正利 富田正一郞 二年一組鷲尾一 先崎濟一 二組大森文勝 林貞男

磐中寒稽古

◇十日から開始

愈々小寒に入つて寒さも一入身に沁る此頃、各方面とも例により寒中行事を始めたが磐中では明十日より十日間毎日放課後柔、劍道部の寒稽古を行ひ、その他各部も之に準じ行ふことになつた、平商では來る十六日大寒入りから十日間行ふと

舊正迄働き度い

夏井川改修の女勞働者 關係筋に哀願

地方民を少からず潤した夏井川改修工事平町鎌田地內工事は鐵橋下男女百十餘名鎌田橋下流五十餘名で順調に進捗して來たが最近上流工區が大体竣功に近づいたので女勞働者十餘名を一時休ませたので代表者は一昨七日夜岡田區長に對しせめて舊正月迄働かせて欲しい旨の斡旋方を申し出で同氏から事務所及紹介所に陳情したので紹介所では取敢ず他方面に使つて貰ふ樣極力奔走中であると

平町勞銀

平町役場最近の調査に係る勞銀左の如く去る九日調査に比し日雇業が十錢値上の外何れも同額

農日雇六〇錢 塗師、染物、仕立各四五 木挽一、二〇 大工、左官各一、〇〇 指物、建具各九〇 石工一、四五 植木一、二〇 日雇八〇

助成會 舊歲末救濟

平助成會では例年の如く舊歲末救濟として近く委員會を開き協議するが新正月には一人當り五十錢を贈つたので今回は一人當り白米三四日分を贈る事になるらしい

。。。。平町急施町會。。。。

平町では全國町村長會に合流し來る十一日午後一時から急施町會を招集地方財政調整交付金制度確立に關し協議の上首相、大藏、內務の三相に意見書を提出する事になつた

第一書初展

平第一校では明後十一日より三日間一般は各教室に優秀のものは講堂に掲示の書初展覽會を開く

。。。。四倉町雞鳴會。。。。

昨八日夜の役員會で總會を明十日午後七時より同町青年會館に於て開催、役員改選、今年度行事決定、會計報告等行ふことになつた

。。。。第二赤十字寄贈。。。。

平第二校少年赤十字團では曩にも萬國赤十字團宛成績品を贈つたが近く再び取纏め送付すると

。。。。救濟事業認可。。。。

澤渡村渡戶地內工費二千圓の第二回冷害對策匡救村道改修工事は昨八日認可あつたので直に着工する

。。。。電線泥棒出沒。。。。

內郷村御臺境地內の東部電一號線約百三十米が何者かに切斷窃取されてゐるのを一昨七日通行人が發見したので目下平署で犯人嚴探中

。。。。平窪村區長會。。。。

平窪村では昨八日午後二時から村役場に區長會を開き政府米拂下、免租、身賣防止に關し協議した

。。。。湯屋役員改選。。。。

平湯屋組合では此程定期總會を開き組合長齊藤義策、副組合長愛澤長吾兩氏以下の役員改選を行つた

。。。。潛り桂庵跋扈。。。。

內郷村大字宮字金坂無職前科四犯佐川德五郎（四〇）は無免許で去る十月中旬頃同村高坂農吉田秋次郎三女ヨシノ（一四）を愛知縣室井郡西久保町雜貨商外山ユキ方女中に二十才迄二百五十圓で世話し手數料として三十圓を貰つたのに味を占め其後同村御厩野菜行商人井上賢佑二女某（一四）を靜岡縣濱名郡鷲津町吉津織物工場女工に四年間二百圓で斡旋三十餘圓を受けた外同樣手段で前後七件の無免許周旋をなした事發覺、此程平署に檢擧された

舊十二月六日				
木曜	丙戌	大安	收	角宿
新一月十日				

諸判定鑑 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 當時には別段變ひは無けれども新事業は凶▲二黑の人 心を陽氣に持ては運氣も引き立ち來るべし▲三碧の人 德を磨き行ひを正し律義一方に出づべき日▲四綠の人 先走りをせず心を落付け空想を去るが宜し▲五黃の人 人と競爭するときは結果は失敗に終るべし▲六白の人 運氣未だ十分ならざれども勵めば功ある日▲七赤の人 口を愼めば大抵の事は成就すべき吉日なり▲八白の人 窓地を張ることなく遲きを苦にせず勵げめ▲九紫の人 運氣壯んなる樣に見へても不時の失敗あり

十日（小名濱測候所調査）

日出 六、四七 月出前 九、五四
日沒 四、四一 月沒後 一〇、三六
滿潮 前七、五〇 後七、二五 干潮 前一、二五 後一、四〇

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前

「入院のお需めに應ず」
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

吸入用酸素
度量衡
モノサシ マス ハカリ
寒暖計 体温器
◎秤ノ取扱
關內藥局 電話四〇番

新進の店 開業 堅實な店
公社債、勸業債券高價ニテ買受ケマス
水戶市ヨリ來マシタ株式店ヲ御利用願ヒマス
公債、社債株式賣物賣買
友部株式店
平町三丁目 電話一七七番
株は一株から 債券は一枚より

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店
海上給油—大津、平潟
及油槽所—小名濱、江名濱
營業種目
輕油、石油、揮發油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻、種水、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ